

日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト

伝統的准医師クラス講習会

団 長：金井 英樹（国際部）
横田 良介（宮城県柔道整復師会）
浪尾 敬一（香川県接骨師会）
村上 陽美（広島県柔道整復師会）
河村 亜希（国際部）

指導者候補：エンフタイワン・トゥブシンバヤル
ダシュラウダン・ボロルトゥーヤ
オユンバートル・ダリルチュルン
ムンフバートル・ボロルチメグ

JICA 草の根技術協力事業パートナー型日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクトの活動の1つとしてカウンターパートであるモンゴル国立医療科学大学附属看護学校伝統的准医師クラスの3年生31名に対して5日間の講義を実施する。

今回の講義は、完成したテキストを使用し、指導者候補をメイン担当として進行する。また、NHKワールド「side by side」の取材同行も控えており、本プロジェクトを公に広報する機会となっている。

日 程

9月8日：開講式・講義第1日目

(1) 開講式 9:00～10:10

- ①挨拶 モンゴル国立医療科学大学附属看護学校 バイガル 先生
- ②挨拶 公益社団法人 日本柔道整復師会 国際部員 金井 英樹
- ③挨拶 モンゴル国立医療科学大学附属看護学校 看護部長 ソロンゴ 先生
- ④プロジェクト概要 公益社団法人 日本柔道整復師会 国際部員 河村 亜希
- ⑤教科書受け渡し



(2) 講義

10:10～14:30 基本包帯理論・実技

14:30～15:40 固定材料作成

最終学年の3年生に授業を実施したが、包帯固定は未経験の様子であったが、講義が始まると受講生たちは熱心に練習に取り組んでいた。シーネ作成は、ボロルトゥーヤ、ダリルチュルン、ボロルチメグをメイン担当として実施し、作成のポイントや注意点を説明し講義を実施できていた。



(3) 臨床実習 15:50～16:20

(4) 日本モンゴル医療学会参加 14:10～16:00

9月7日～8日に行われた Mongolia-Japan medical forum に招かれ、8日午後から浪尾派遣員、金井国際部員とトゥブシンバル氏の3人で参加した。このフォーラムはモンゴル国立医科学大学の教授たち、日本の大学（獨協医科大学、東北大学、東邦大学、徳島大学、愛媛大学、昭和大学、愛知学院大学、長崎大学、医療法人生生会）の学長、研究科長ら、JICA 所長、国会議員などそうそうたるメンバーが一堂に会し、モンゴル国での医療サービスの質の向上を目的としたものであった。17年近くモンゴルの医療協力を行ってきた日本口蓋裂協会常務理事の夏目先生が座長となって行われた round table discussion ではモンゴルの医療体制に触れ、現在モンゴルで治療できない33疾患に対し一疾患でも多く治療可能とするために早期診断をすることが大切で、人材育成が不可欠とのテーマで議論がなされた。そのためのツールとして telemedicine を導入し、現地のみでなく国内においても指導、教育ができるようなネットワーク構築が必要だとの意見が出た。

日本の大学が医療協力する上で、その大学の専門分野などの特徴はモンゴル側でも入手困難な情報もあるため、できるだけ一つの機関によってモンゴルの医療状況に必要な情報をまとめ、提供できるように整備していきたいとのことであった。そのほか海外からの医薬品の輸入の問題にも触れ、活発な意見交換がなされた。

次年度、モンゴルで開催予定の「国際伝統医学学会（仮称）」の準備のために参加させていただいたが国際医療協力のために大変参考になるフォーラムであった。



9月9日：講義第2日目

(1) 講義

8:00～9:30 橈骨遠位端骨折理論

9:40～15:00 橈骨遠位端骨折実技

指導者候補生であるツブシンバヤル氏による Colles 骨折の講義を行った。前日の夜からプレゼンテーションを何度も確認し、指導するうえでのポイントをピックアップし準備を万全にして講義にのぞんだ。彼はモンゴル国内でコーレス骨折の治療経験が複数回あり、整復・固定の要点をしっかりと理解していた。また先週滞在したホブド県で派遣員とともに治療をした動画も交え、視覚を使った指導法も生徒たちに好評であった。看護学校でも本日からテキストブックを使ったため、今まで以上に生徒の理解力があつたように感じた。今年を受講生も熱心に受講する姿がとても印象的で、派遣者のみならず指導者候補生の意気込みも強く感じられた。



(2) 骨折患者の経過観察（下腿骨両骨骨折）、インタビュー 13:00～13:30

(3) 柔道連盟訪問 16:20～19:00

ナショナルチームに対する治療

(4) カイエンとの打ち合わせ 19:30～20:00



9月10日：講義第3日目

(1) 講義

8:00～10:30 鎖骨骨折理論

10:30～15:30 鎖骨骨折実技

今回の鎖骨骨折の講義は指導者候補ダリルチュルン、浪尾先生を中心として実施した。ダリルチュルンの鎖骨骨折に対する理解はある程度のものがあつたが、講義進行には未熟さがあり、その都度助言をして改善できるように努めた。

昨日と同様、学生が熱心に講義に取り組む様子が見られ、講義の最後には10人程度の学生から質問の依頼を受けた。



(2) 臨床実習 (ダリルチュルン、ボロルチメグ)

15:40～19:00 右膝内側側副靭帯損傷、右膝外側半月板損傷、両膝関節症、腰椎脊柱管狭窄症、左足関節捻挫、腰椎椎間板症 (2名)

19:30～20:00 腰椎椎間板症

看護学校の学生および教職員で痛みのある人に対し、診断および治療の進め方について指導を行った。今年6月から8月にかけて日本研修を行った二人の指導者候補生は、評価および治療法について今まで以上に学ぶことができ、前回モンゴルで行った臨床実習の時よりもスムーズに問診、評価が行えたように感じる。急性損傷の症例もあつたため、引き続き明日も経過観察を行うよう指導者候補生に促した。



9月11日：講義第4日目

(1) 講義

8:00～10:30 肩関節脱臼理論

10:30～16:30 肩関節脱臼実技

講義は指導者候補ボロルチメグ、浪尾先生を中心として実施した。



(2) 臨床実習 (ダリルチュルン、ボロルチメグ)

16:40～18:00 陳旧性肩鎖関節脱臼、胸郭出口症候群、右膝関節 MCL 損傷

右膝関節 MCL 損傷に関しては経過観察、包帯固定を再度実施した。



9月12日：試験日

- (1) 筆記試験 8:00～9:00
- (2) 実技試験 9:00～13:00



(3) 閉講式 13:00～14:00

司会：浪尾敬一

- ① 成績優秀者表彰
- ② 総評
- ③ 挨拶 モンゴル国立医療科学大学附属看護学校 オトンゴア学長
- ④ 挨拶 公益社団法人 日本柔道整復師会 横田良介
- ⑤ 記念撮影



(4) 臨床実習（ダリルチュルン、ボロルチメグ）

14：30～15：30 両下腿骨骨折、第1腰椎椎体圧迫骨折・椎間板ヘルニア疑い

今回の大学での講義の状況とそれに対して、課題と対応を考察し振り返る。

まず、モンゴル語のテキスト・ハンドブックを用いての講義は、生徒から大変好評であり、成果としてあらかじめ講義の予習をしてきた学生多く見受けられた。

テキストを用いる授業により、理解度を深めることとなったが、今後、カウンターパートならびにモンゴル人指導者候補ともに様々な外傷治療に対して応用力を得ることのできる講義の進め方を検討していく必要がある。

指導者候補に関しては、外傷治療に対してある程度理解力がある様子であったが、座学、実技ともにまだ聴講者に伝達することが上手いいかない様子であり、今後は、スライド作りにくわえ、特に実技で

のデモンストレーション技術を向上させていくべきである。

また、臨床実習に関しては、診察をメインに指導者候補に実施してもらいながらフィードバックを行った。特に気になった点として、問診の取り方や、鑑別診断の方法、それから徒手検査に関して、実施は可能であるが、徒手検査の意義への理解が不足している様子であった。以上の点はその都度フィードバックしていったが、10月に控える日本研修を中心として再度理解を深めるように指導していく。

プロジェクトの終了に向けて、柔道整復術の講義活動とともに、モンゴル人柔道整復術指導者育成も大変重要である。指導者候補はプロジェクト期間残り2年で完全に私たちから自立し、柔道整復術の指導・普及のすべてを担っていく事になる。講義活動とともに柔道整復術で対応できる臨床能力の向上にさらに努めていく。